

次世代社会インフラ用ロボット現場検証の取組

参考資料

総合政策局公共事業企画調整課

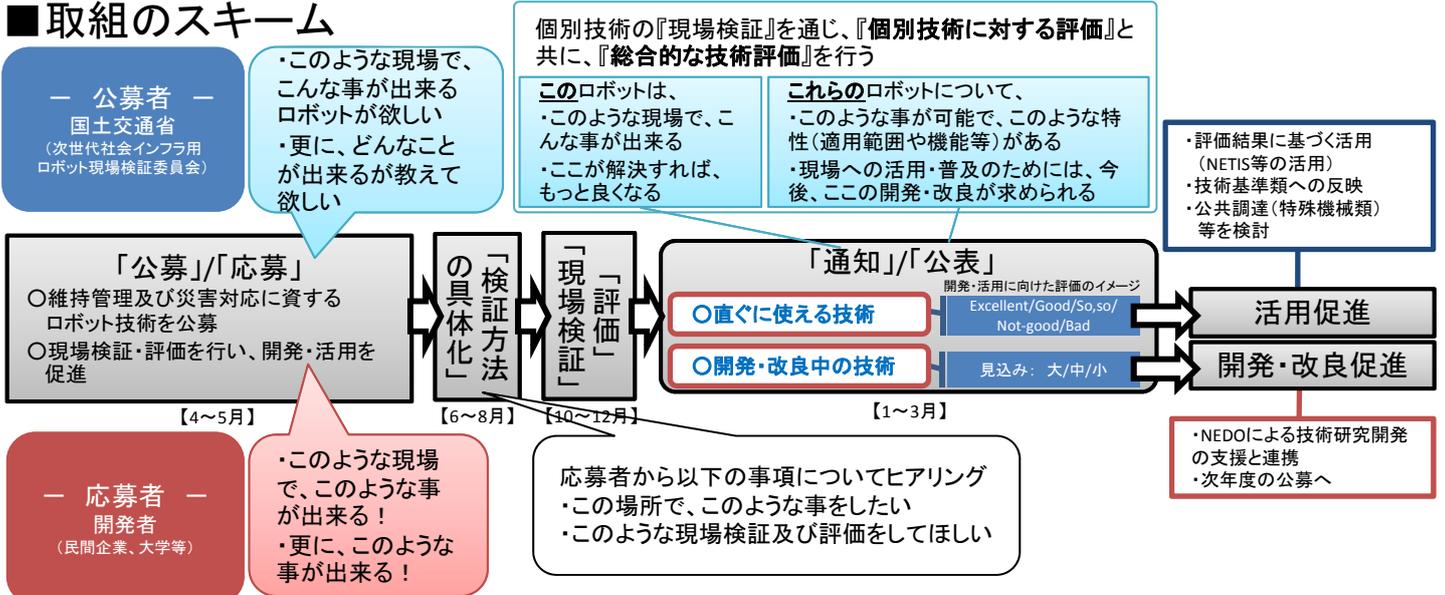
取組概要

社会インフラの現場に役立つロボットの開発・導入を促進する取組。

(ポイント)

- ・民間企業や大学等の優れた知恵や工夫を活用 (公募&コンペティション)
- ・実際の維持管理又は災害の現場検証を通じて、開発と活用を促進 (現場主義)
- ・活用及び普及までを見据え、公募・現場検証・評価を実施 (出口戦略)

取組のスキーム



重点分野

次世代社会インフラ用ロボット開発・導入重点分野 (平成25年12月25日 国交省・経産省公表)

国土交通省と経済産業省において、重点的に開発支援する分野を特定 (平成26年度から開発支援)

(1) 維持管理

○橋梁

- ・近接目視の代替ができる装置
- ・打音検査の代替ができる装置
- ・点検者を点検箇所近づける作業台車



○トンネル

- ・近接目視の代替ができる装置
- ・打音検査の代替ができる装置
- ・点検者を点検箇所近づける作業台車



○河川及びダムの中筒所

- ・堆積物の状況を全体像として効率的に把握できる装置
- ・近接目視の代替ができる装置



(2) 災害対応

○災害状況調査 (土砂崩落、火山災害、トンネル崩落)

- ・土砂崩落及び火山災害現場において、高精細な画像・映像や地形データ等の取得ができる装置
- ・土砂崩落及び火山災害現場において、含水比や透水性等の計測等ができる装置
- ・トンネル崩落において、引火性ガス等に係る情報の取得ができる装置
- ・トンネル崩落において、崩落状態や規模を把握するための高精細な画像・映像等の取得ができる装置



○応急復旧 (土砂崩落、火山災害)

- ・応急復旧ができる技術
- ・排水作業の応急対応ができる技術
- ・遠隔・自律制御にかかる情報伝達ができる技術



実行体制: 「次世代社会インフラ用ロボット現場検証委員会」

公募したロボットについて、現場検証及び評価を行うため、産学官の有識者で構成される「次世代社会インフラ用ロボット現場検証委員会」(以下、「委員会」という)を設置しました。委員会は、橋梁維持管理部会、トンネル維持管理部会、水中維持管理部会、災害調査部会、応急復旧部会の5部会から構成されます。

委員会において、公募内容、検証場所及び検証方法を決定していくこととしています。